

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

議長の許可をいただきましたので、質問させていただきます。

まず1つに、市長の政治姿勢についてお尋ねをします。

昨年12月の定例議会の一般質問におきましても、市長の政治姿勢について、そのときは市長としての、いわゆる市民団体の市長のあいさつの件について昨年12月に指摘をいたしました。今回は、市長も演告に書かれておりますが、新武雄市が合併して3月1日で丸5年を経過いたしました。市長はこの間、市のポテンシャルを大いに全国に発信していくということで、市のホームページの更新も含めて、鋭意努力をされております。そういう中で、市のホームページの役割は今日非常に重要だと思えます。そういう中で、当然市のホームページとして、このホームページは当然武雄市の固有のものでしょうし、公的な発信だと私も認識をいたしております。

そういう中で、このホームページの中に「市長の部屋」というページがございます。この「市長の部屋」というブログの中で、市長はさまざま、これまで毎日発信をされてまいりました。私がここでお尋ねをしたいのは、「市長の部屋」ですので、市長というこの名称からいきますと、当然市の代表統括権者としての市長の見解は、すべてこのブログを通して市長の認識を発信されているというふうに認識をする次第です。

〔市長「違います」〕

違うんですか。じゃ、答弁をお願いします。

私はそういう中で、「市長の部屋」というならば、やはり品性を持って、「市長の部屋」としてのブログを発信するならば、当然中身につきましても、みずからの誠意ある文言と、そしてすべての市民、あるいは日本各地、そしてまた世界に発信していると申されております。私はそういうとき、この5年間経過してみて、「市長の部屋」の公的なものとしての役割は、私はそういうふうに認識をしたいわけでありませぬ。今、市長はそうじゃないと言われましたが、ならばこそ、私は市長の見解として、やはり公的な市長という名称からいきますと、響きはやはり公的な市の統括代表者として発信されている、一政治家として発信されているというふうには私は理解できません。そういう意味では市長の認識をまず求めておきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、法的に言っても、市のホームページから私、首長、市長のブログへリンクしている点は特に問題はありません。市のホームページから市長のブログに直接リンクしている例として、宮城県名取市、群馬県太田市、千葉県千葉市、神奈川県横須賀市、静岡県藤枝市、愛知県新城市、大阪府箕面市、兵庫県姫路市、佐賀県だと佐賀県多久市、これはリンクのペー

ジから市長のホームページにリンクをされているということで、形式的には何ら問題ありません。

しかし、あなたから品性を言われるとは思いませんでしたね。ちょっとね、どうですか。逆に聞きますよ。じゃ、何できのう、議会を欠席されていたんですか。一般質問という、特に本会議というのは、私も体を引きずってきたことがありますよ。山口昌宏議員、これは言っているのかどうかわからないんですけども、顔色悪かけん、きょうぐらい休まんねと言うたことがあります。あるけれども、一般質問は質問しなくても、これは市議の最高の義務だということをおっしゃられた記憶があって、そんな、やっぱり人に品性を言う前に、自分の品性を考えてから物を言ってほしいと、このように思いますよ。そして、その品性の問題はともかくとして、それはもう見たよう見た目です。私に品性があるかどうかというのは、それは有権者に判断してもらいます。

それともう1つが、私は、何というんですかね、たびたび重ねて申し上げますけれども、私、市長というのは選挙で選ばれているんですね。皆さんたちと一緒にですよ。ですので、これを行政の長としての行政官として分ける、それと政治家として分ける。分けられるわけじゃないですか。右半身が市長で左半身が政治家って分けられません。それが政治家なんですよ。だから、そういうことで言うと、それを分けろということ自体が、それを私は品性を疑います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

江原議員に関しては、きのう、病気欠席の届けが出ております。26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

二、三、釈明を求められましたので、申し上げたいと思います。

私は市長が、その前に今質問しましたけれども、市のホームページのあり方について答弁を求めたんですよ。それに正確に答えずに、違う形で、みずからも市長は申されておりますが、市のホームページとして分けられますかと、「市長の部屋」の内容について分けられますか、政治家か一個人かと。私はこの間、すべてのこのブログを閲覧した人たちも含めて、いろんな人がいらっしゃるの当たり前ですよ。市長の認識に賛同される方もたくさんいらっしゃるでしょう。でも、そのブログを見て、さまざま受け、認識の違いを私は代弁して市長に返しているわけです。そういう市民の認識もたくさんあると。それは何よりも、昨年の選挙で出ていますように、当時、武雄市の4万人の当日有権者がいらっしゃいます。そのとき投票に行かれた方が約3万2,000人です。市長に投票された方は1万8,170票でした。ですから、投票に行かれた方の56.45%が当然市長を信任されているわけです。（「何ら問題なかろう」と呼ぶ者あり）問題ないから言っているんですよ。一方で、議会の選挙におきましては、やはりすべての市民の、いわゆる間接民主主義として投票していただく、その代表と

して議会を構成する議員に投票されている票数は約90.86%です。それぐらい市民の皆さんの多種多様な声がこの議会に、26名の議員がさまざまな市民の意見を持ち寄って、ここで質問したり、質疑に参加したりしているわけです。そういう二元代表制を含めまして、今の地方政治が進んでいるわけですよ。

当然さまざまな意見を、市長はことしの1月の市の広報にも「多聞第一」と、大きく見出しも含めて、市民の皆さんの意見を聞きましょうと、「多聞第一」という文言もちゃんと明確に入れていらっしゃるではありませんか。この議場でも多聞第一だと当然おっしゃっています。だから、そうした市民の声を私ども議会はそれぞれの立場で代弁できる、そういうシステムとして、今、議場があるわけです。ですから、一つの「市長の部屋」のブログの中身につきましても、私はやっぱり、市長が自分の意見に合うような意見に対しては、だけではない、違う意見もいっぱいあるわけです。そういう自分の意見に合わないものに対して非難と中傷を、毎日毎日じゃありませんが、数十回にわたって私ども、特に日本共産党議員団兩名の名を名指しをして取り上げていらっしゃるではありませんか。これが市長の品位を問わなくてどうすればいいんですか。こんな市長が、いろんな意見はありますよ。でも、自分の意に沿わないものに対して、まさに問答無用のような「市長の部屋」のブログは断じて認めるわけにはいきません。これまでの私自身の新武雄市の議員として、何ら恥じるものでもありません。毎日毎日ああやって、そうした自分の意に沿わないものに対して非難、中傷を繰り返すことの、市長の品位を私は問うているわけです。少なくとも私は間違っていないと思います。市長の認識を、市長の品位のあり方を今後断固として注意することを強くまず求めておきたいと思います。

先ほど答弁で言われましたけれども、当然市議会の中に出席するのは議員の最大の仕事です。しかし、ややもすると、人間の体は生身の体であります。いついかなる病が襲うかもしれません。しかし、その病を押しながらも断固として頑張る決意であります。私は、市長がなぜ昨日は出席しなかったか、そういう質問をすることこそおかしいのではないんですか。議長、取り計らってください。

○議長（牟田勝浩君）

今は議長に対して質問ですか。

○26番（江原一雄君）（続）

はい。

○議長（牟田勝浩君）

一般質問は議長に対する質問はありませんけれども、先ほど市長の答弁の後に……

○26番（江原一雄君）（続）

いや、市長が私に答弁を求めたからです。

○議長（牟田勝浩君）

いえ、今おっしゃるのは議長にということだったので、先ほど市長の答弁の後に26番議員は病養で欠席届が出ていましたという説明をさせていただきました。進行してください。質問は。（「質問ばせんね」「質問ばせんば」と呼ぶ者あり）質問は。（「何ば議長に答弁はからんばらんと一般質問で」と呼ぶ者あり）すみません、質問の要旨を。今、議長に計らってくださいということだったので、そのように言いましたけれども。（「市政に対する一般質問やとにさ、そいば議長に言うとはおかしかさ」と呼ぶ者あり）26番江原議員

○26番（江原一雄君）（続）

議長、市長が私にきのうの本会議に出席していないのはなぜかと聞かれたんですよ。そのことを議長に聞いているんですよ。

〔市長「なぜかって言っていないですよ」〕

違いますか。（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

先ほど市長が答弁でそういうことを言われたというのは、特に江原議員がこれこれで休んでいるのは報告していません。ですから、先ほどの答弁が終わった後に、26番議員は病欠でやっていたということを知りながらここで言いましたけれども。

一般質問を続けます。26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

もう1点、ことしの1月3日の市の成人式がありました。この件について市長の認識を伺いたいと思います。

市長のあいさつは、まさに市を代表してあいさつをされているわけです。1月3日の「市長の部屋」のブログによりますと、そのときの市長のあいさつをブログに掲載されました。読み上げてみたいと思います。「成人の皆さんに言いたいのはただ一つ。親を追い越せだ。年賀状の数、貯金の金額。親御さんはいつか世の中を去るだろうし、君たちも去る。そのときの線香の数。線香の数で親に追いつけ、追い越せ。親を追い越すことが、君たちの幸福、地域の元気、ひいては、日本の発展につながると信じる。そうだ、忘れてた、本を読む数も追い越せ。そのリストの一つ、僕の「首長パンチ」を加えてくれ（ここで、市長、分かった！！と声。また、議会でいちゃもん付けられるだろうなあ（笑））。」と書かれています。「僕は、リコールに遭ったんだ。リコールと言えば、車だけかと思ったら僕まで受けた。君たちの一先輩の波瀾万丈の物語だ。最後に、今日まで育ててくださったご両親、地域の皆さんに感謝の意を自分の言葉で伝えてほしい。おめでとう。そして、頑張れ。以上、終わり！！話したのは2分くらい。万雷の拍手でした。やっぱり、話せば通じるもんですね。成人になれる皆さん、おめでとう。」。私は、たまたま我が子も成人式でございまして、この会場に親子ともども参加をさせていただきました。だけど、真相は、市長、今読み上げましたけど、言っていないのに書いているんですよ。 「おめでとう。」。

〔市長「言いましたよ」〕

言っていないですよ。

〔市長「言いました」〕

言っていない。

〔市長「言いました」〕

言っていない。

〔市長「言いました」〕

会場で言っていないです。

○議長（牟田勝浩君）

質問者、そのまま続けてください。（「市長、黙って聞いておかんね」と呼ぶ者あり）市長、聞いておいてください。（「どっちもどっちたい」「そう、どっちもどっち」と呼ぶ者あり）質問を続けます。

○26番（江原一雄君）（続）

市長、私はこの会場を終わって、当然同じ同級生でございますので、親御さんたちと、何人かの方たちと会う機会もありました。「おめでとう」の「お」の字もなかったねと、子どもがかわいそうだと言われました。私は昨年10月22日、山内町老人会の運動会でのあいさつの件を指摘いたしました。

〔市長「質問してくださいよ」〕

質問ですよ。市長の政治、あり方、姿勢について、やはり市民のそういう思いを私は代弁して、市長に認識してほしい。立派な市長として、やはりあいさつに磨きをかけて、すべての市民の皆さんの賛同を得て立派な市長になっていただける、それは市民の多くの皆さんの願いでしょう。だけど、この間、市長は、まさに市民分断の塩をさらに押し込むような形で、排除の論理、自分の意に食わない人にはまさに非難合戦ではありませんか。私は、ですから、この1月3日のブログも取り上げたことは、やはり本当に参加されている親御さんたちが、成人の日にふさわしい、すべて間違っていると言っているわけではないんですよ。聞いていて、終わって、それをある御父兄の方が私にそういう認識を、感想を述べられている。そのことを市長におかしい、聞いてほしいということを行っているんですよ。そのことについて、市長がやはり襟を正して、5万2,000人の武雄市の市長にふさわしい、そうした政治姿勢を持って頑張るべきではないか、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

品性を持って答弁をしたいと思います。

まず、完全に認識がお間違えあそばされているのは、市長選で投票率が53%でしたっけ、

55%でしたっけ、これは議会制民主主義におけるルールといたしましては、1票差でも、これは基本的に1人を選ぶということになれば、それは100%の信任を受けているというのが議会制民主主義のルールなんですね。ただ、これは独裁者にはなり得ないんです。よく私は独裁者だとかワンマンとか言われますけれども、私、軍事組織持っていないですよ。バズーカ砲持っていません。4年間で選挙という洗礼を受けるんですね。そのときに本当にこの人に託してよかった、これは議員の皆さんたちも一緒です。昌宏議員でも一緒です。議員の皆さんたちがいいかどうかというのは、4年後、有権者の皆さんたちが判断をする。ですから、あなたにとやかくあんまり、僕も言っていないしね、だから、それはお互い政治家なので、切磋琢磨しましょうよ。ですので、それでちょっと私が気になった言葉は、私は間違っていないで、それはこれを聞かれている方が判断する話だと思いますよ。上から目線で私は間違っていないという言葉そのものが、ちょっと品性がどうなのかなというふうに思います。

そして、私は絶対に弱い者いじめはしません。これは私の、本当にこれだけはもう中学校1年生から決めているんです。弱い者いじめはしないと。だけど、強い者には立ち向かいます。私より強くて、しかも、その権力を我が物にするやからには闘います。例えば、今回、住民訴訟で、原告の皆さん方に私はとやかく言うつもりはありません。しかし、何ですか、記者会見に平野議員も江原議員も同席したり、そして朝日新聞に、普通、僕は朝日新聞から物すごく厳しくて、もう講読断ろうかなと思ったんですけど、これでまた講読やろうと思っているんですけど、住民訴訟で市財政に重荷、武雄市民病院に係る弁護士費用、勝訴でも回収できずということで、江原議員、インタビューを受けているじゃないですか。どこが関係ないんですか。ですので、そういう何か党利党略みたいな、それは断言できないかもしれませんが。しかし、私はそのように思っていますので、それは私は闘ってまいりますよ。だから、今回に特に皆さんたちとはもう相入れません、そういう意味では。僕は弱い者いじめしているつもりは全くありません。

もう1つ申し上げますと、発言の自由を制限するような発言はぜひやめていただきたい。これは憲法にも保障されていますし、政治家たるもの、発言の自由こそが最大の私としては存在意義だと思っていますので、もし私に対する批判があったら、もう自分でブログをやってください。江原ブログ、あるいは江原ツイッター、江原フェイスブック、それで同じ土俵でやりましょうよ。それが今の現代の民主主義だと思いますよ。だから、私が言っていることが全部正しいとは思っていません。思っていませんけど、私は自分の政治的良心に従って、あるいは人間的良心に従って、これはいい、これはおかしいというふうに申し上げている次第であります。だから、そういうことで、ぜひこれは同じ土俵でやるべきだというふうに思っていますし、それが一番最たるものがこの一般質問だというように思っていますので、ちょっと事情を知らずに病気でお休みなされたということに関しては、ちょっと私がそれはそれで一定の配慮をしてしかるべきかなというふうに思っておりますので、これはちょっと謝

りたいというふうに思っております。

以上です。体はぜひ大事に。

○議長（牟田勝浩君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

もう結局、私はブログだろうと、ホームページだろうと、ツイッターだろうと、それは武雄市民の皆さんが一番目に触れるのは、市長もおっしゃっているように、この議場です。だから、議場で何にも隠さなく、市長に対して市長の認識を問うてはおりませんか。それをホームページつくれの、ブログをつくれのと、そういうことではなくて、私はこの場ですべてのことを明らかにし、問題にしているわけです。何らおかしいものでも何でもありません。市民の、有権者の皆さんの思いを代弁して、今後とも、この課題について市長の認識、いいことはいい、おかしいことについてはおかしいではないか、こういうことを声を上げて議員活動を進めさせていただきたい、訴えておきたいと思っております。

次に、農業問題に移ります。

私は、昨年12月議会にも農業問題について市長の認識を問いました。特に菅民主党政権が強引に進めようとしているTPP、いつの間にやらこの言葉が新聞、テレビを通して私たちに認識させられるようになってまいりました。環太平洋戦略的経済連携協定、だんだん頭に入ってきたわけですがけれども、今、全国でTPPに対する反対の運動が大きく広がっております。武雄市内、あるいは佐賀県内の農業関係団体だけでなく、消費者、女性団体の間でも反対、阻止の運動が急速に広がっています。昨年12月にも越して、全国で国民世論の認識もTPPが交わされれば大変だという思いが学ばされながらそうした反対の運動が広がっております。市長の認識を再度お尋ねしておきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず答弁に入ります前に、正確に私が申し上げたことを引用して発言をしてほしいんですね。というのは、私は先ほど一般質問というのは最大の、見せ場と言ったかどうかわかりませんが、そこが最大の討論の場だと言った。私のブログを攻撃、排撃されるのであれば、それは御自身で持ってくださいよということと言ったんですね。何もこの議会活動の一環たる一般質問を否定したわけじゃなくて、私も一般質問が一番あれですよ、人生の中で燃えますよ。だから、それはもう多くの皆さんたち見えていますもん。視聴率、場合によっては20%超すと言っていますからね。だから、そういう意味でいうと、私はここが最大の議論の場だというふうに認識をしております。ぜひそういうねじ曲げずに言ってくださいね。

それともう1つがTPP。TPPについては、以前、小池副議長、そして山口昌宏議員に

も答えましたけれども、基本的にこれはいろんなちょっと問題があるんですね。やっぱり進めるべき問題と議論が詰まっていない問題、そして、これはやっちゃいけない問題というのが、今、菅ぐちゃぐちゃ民主党政権の中で、なかなかぐちゃぐちゃぐちゃぐちゃなっているので、今これに、もう政権に任せることできないんですね。だから、これは農業経営者の皆さん、そしてこれは工業も入ってくるんですね、中小企業の皆さんたちも入ってくるので、そこでしっかり議論を、これはどういう影響を受けるかと。それと、やはりこれは以前、岡山県の宇野岱宏さんが講演に、これは有機で無農薬でつくっている農家の方が山内町で講演をしていただいたときに、T P Pに対する質問を、お仲間だと思いますよ、北方の。質問をされたときに、こういうことを言われたんですね。T P Pについては、もうこれは時代の流れだろうということ。だから、国に何かを期待するのではなくて、それにもう不可避だと思って、自分たちが何をできるか考えるべきじゃないかということをおっしゃったので、それはそうだなと思いましたですね。しかし、あなたのお仲間は、それはちょっとおかしいんじゃないかということ言われて、そんなこと講演で言っているのかと、非常に講演者が傷つけられたということをおしは認識しております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

至らんことまでいろいろおっしゃっておりますが、前回、武雄市の農産物の影響額、50%を超える24億円もの農産物被害、打撃を受ける。あるいは県内の農産物10品目の中でも500億円もの損失をこうむる。全国で4兆3,000億円を超える、また雇用350万人がなくなっていく。そうした農業を取り巻く部分だけでなく、このT P Pによる問題は非常に大きいわけであります。

私がお伺いしたのは、この武雄市政にとって、きのうの質問でも出たかと思いますが、先ほどの午前中の質問でもそうですが、かつて山内町もキャッチフレーズとして「黒髪の浪漫と自然公園の町」として、やはり黒髪山の太蛇退治の伝説を、それを自然豊かな山内町の姿として、キャッチコピーとして、前町長を先頭に頑張っておられました。そういうまさに武雄市内を、あるいは佐賀県におきましても、そうした農林漁業を取り巻く、第1次産品を取り巻く自然景観豊かな武雄市政の中で、ただ単なる農産物の影響だけでなく、人間社会にとってそうした重要な第1次産業分野がまさに大きな打撃をこうむっていく。今後、日本のT P Pが加盟されれば、5年、10年後、大変な時代が到来するんだということをおっしゃっております。学ばば学ばばです。

市長は言われましたけれども、もちろん菅内閣、今の内閣支持率がこれだけ下がるなら本当にぐちゃぐちゃです。私もその認識は、市長、一緒です。だからこそ、このT P Pに対し

て、武雄市の市長として賛成なのか反対なのか、明確に答えてほしいな、その認識を伺っているわけですから、求めておきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

賛成とか反対とかいう以前の問題で、じゃ、伺いますけれども、このTPPの問題で、では、あなたはTPPをどういうふうに認識をして、それが不可避だというふうになった場合に、どのようにすれば農業の生産者の皆さんたちがある意味ハッピーになって、ある意味農業は存続可能かというのを伺って、それについて私は、そこの議論の中で私のイエス、ノーというのを答えたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

私が聞いているのは、今、市長の認識として受けている情報を受けて、私が賛成か反対か、私は明確に反対だと言って質問しているんですよ。だから、今まで市長が勉強されていること、またこれから、今後、武雄市政の1次産業、農林漁業をどうしようかというときに、国政でのそういう大きな課題が舞いおりているときに、そのことについてどういう認識がありますかというのを聞いている。当然答えられる内容でしょう。それを私に対して逆に質問するのは、これはおかしいですよ。

そこで、じゃ、私は、この間、約3カ月、4カ月の間でも非常にわかってきたのは、食料自給率は民主党さんでも50%に上げると言っているんですよ。じゃ、TPPが協定されたら、いわゆる関税が引き下げやなくなって、どんどんさらに外国農産物が入ってくる。農林水産省の統計でも自給率は13%に下がるんだと農林水産大臣は答弁したんですよ。だから、国民世論は、農業団体の皆さんも、政府が言っている、食料自給率50%に上げようと言うのに、下げようとしているのではないかと。このことに対して、総理も農林水産大臣も答え切れないですよ。

もう1つは、びっくりするのは、今、このアジア、二十数カ国ありますが、TPPに参加しているのは4カ国いらっしゃいますが、オーストラリアとアメリカが参加すれば、その9カ国の貿易額は日本とアメリカで9割を超える。そういう中で、アメリカ政府は、例えば、対日要求されているのがBSE、牛肉のBSE対策で、日本の月齢制限など、規制を緩和してくれ。米輸入の際の安全検査を緩和せよ。また、ポストハーベストの食品添加物の表示をやめよ。有機農産物の殺虫剤、除草剤の残留を認めよ。あるいは冷凍フライドポテトへの大腸菌付着を認めよ。こういうさまざまなアメリカの対日要求が突きつけられています。これは、日本人に対して農薬入りの米や大腸菌つきのポテトを我慢して食べるとでもおっしゃっ

ているのでしょうか。さらに、規制緩和の問題でも、医療の規制緩和、労働の規制緩和、金融の規制緩和、24品目にも上ろうとしております。これがアメリカ主導のTPPの本質ではないかということが私は認識をできつつあるところであります。

私はこうした、今、日本各地でも豪雪や豪雨、あるいは世界各地で気候変動の中で、食料を確保することがいかに大変かということが新聞、テレビを通して毎日報道されているではありませんか。私は、日本の農業のことを考えるならば、自国の食料は自国で生産するという食料主権に立った貿易ルールのため、TPPに断固反対し、その一致点で奮闘する市民、県民、国民の皆さんと力を合わせてTPP反対の運動とともに力を尽くしていきたいと思えます。市長の認識を求めておきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、きょうわかりました。やっとわかりましたよ。何で共産党が支持を受けないかと、全国的に言って。数でもそうですもんね。反対、反対、反対と言うのは楽なんですよ。評論家の皆さんたちが反対、反対と言うのは、それは仕事だからいいでしょう。しかし、我々はある意味、そちらは議決権者です、私は企画提案するほうです。そうなったときに、私だって反対、反対、反対と言うのは楽ですね。楽ですよ。ですが、そのときに議会に求められていること、あるいは私たちに求められていることというのは何かというと、そういう最悪のことが起きたとき、TPPでこれを最悪と規定するならば、最悪のことが起きたときにどうやって日本の農業を守るか。どうすれば今の農業所得者の所得を減らさないか。その中で、どうやれば農業経営者の数をふやせるか、割合をふやすかと、そこが問われているんじゃないんですか。ですので、今、小池議員を中心として、例えば、JAで議論をされている、あるいは心ある——心ないと言っているわけじゃないですよ、心ある議員の皆さんたちが、今、そういうふうにしてどうやれば守れるかという議論をされているときに、いたずらにイエスカノーかと、そんな決めつけるようなことを言っちゃいけません。それよりも、やっぱりこれは手と手を結んで、どうすれば最悪の事態が起きたときに守れるかというのを議論するのが僕は議員の役割だし、それを一般質問で、自分はこういうふうにいるんだけど、どうだろうかというのを問うのが一般質問じゃないんでしょうか。私はそういうふうに牟田議長から教わっています。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

26番江原議員

○26番（江原一雄君）〔登壇〕

今後、このTPPへの対応というのは、国内の市長、あるいは町や村の町長、村長さんた

ちも含めて、また日本国民の世論のもとで決着していくでしょう。このT P Pの問題というのは、本当に日本が、自国の食料を自国で生産するという食料主権というのは世界の流れであります。やはり自国の食料は自国の大地から、そういう立場で今後とも農業問題について、T P Pの問題については一致点で頑張る決意を申し上げて、時間がありますけれども、ここで質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。